

<調査内容>

1. アンケートの趣旨

学校運営協議会制度により、地域住民等からの意見・協力を得ることで教育活動の活性化を図るとともに、地域の特性を生かした学校づくりや課題解決に向けた取組を進めている。

これらの取組により得られた成果や課題を明確にし、地域に支えられる、開かれた学校づくりに役立てることを目的として、各市立学校長に対してアンケートを実施した。

2. アンケートの対象

各市立学校長（小：42校 中：22校 高：1校 計65校）

※小中学校（4校）、一条高等学校付属中学校 一条高等学校の校長は兼務のため、実質60名の学校長が対象である。

3. アンケートの実施期間

令和5年2月20日～令和5年2月28日

4. 調査内容

- ①校長が学校運営協議会委員に求めた意見
- ②学校運営協議会委員からの意見を実際に学校運営に生かした例
- ③学校運営協議会委員からの意見を教職員全員で共有する仕組み
- ④学校運営協議会で決定した方針を地域教育協議会に共有する仕組み
- ⑤コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）による成果
- ⑥コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）における課題

5. アンケートの回収

小学校：38件 中学校：17件 小中学校：4件 高等学校：1件 計60件の回答

6. アンケート集計方法

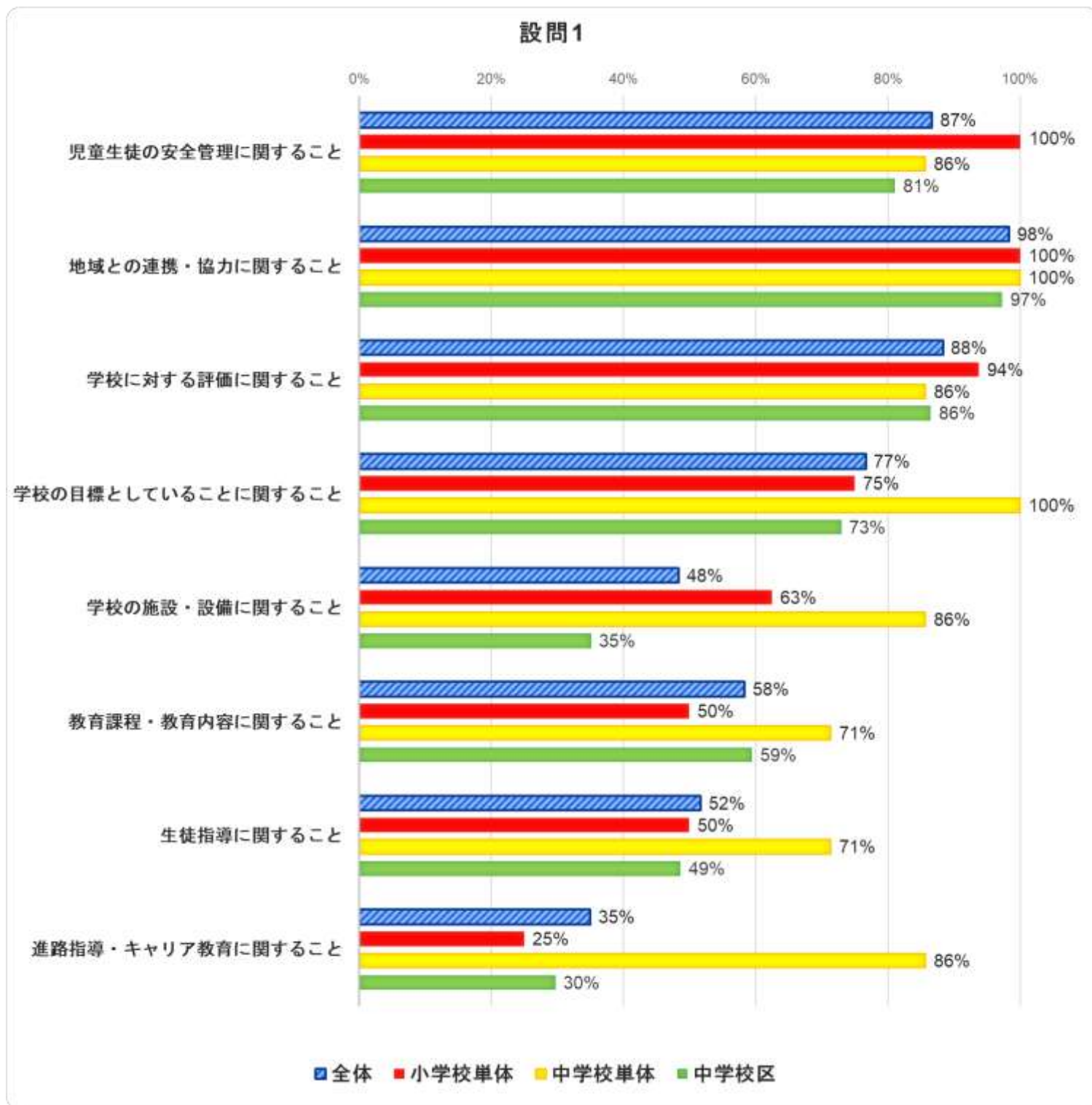
学校運営協議会の設置形態ごと

小学校単体（16）・中学校単体（7）・中学校区（37）

令和4年度 学校運営協議会制度の活用状況に関するアンケート

集計結果

① 校長は、学校運営協議会委員にどのようなことについて意見を求めたか。(複数回答可)



	全体(60)		小学校単体(16)		中学校単体(7)		中学校区(37)	
	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率
児童生徒の安全管理に関すること	52	87%	16	100%	6	86%	30	81%
地域との連携・協力に関すること	59	98%	16	100%	7	100%	36	97%
学校に対する評価に関すること	53	88%	15	94%	6	86%	32	86%
学校の目標としていることに関すること	46	77%	12	75%	7	100%	27	73%
学校の施設・設備に関すること	29	48%	10	63%	6	86%	13	35%
教育課程・教育内容に関すること	35	58%	8	50%	5	71%	22	59%
生徒指導に関すること	31	52%	8	50%	5	71%	18	49%
進路指導・キャリア教育に関すること	21	35%	4	25%	6	86%	11	30%

【具体的な内容（補足）】

（その他の回答）

150周年記念事業、100万円寄付の使途、制服の改正、校門の閉鎖、学校行事に関すること、働き方改革

【概要】

最も多い回答は、98%で「地域との連携・協力に関すること」であった。また、「児童生徒の安全管理に関すること」「学校に対する評価に関すること」もそれぞれの設置形態別に見ても、80%を上回る結果となった。対して、全体的に最も少ないのが35%の「進路指導・キャリア教育に関すること」であり、小学校単体は25%、中学校区は30%であったが、中学校単体は86%であり、設置形態で差がみられた。同様に設置形態で差がみられたのが「学校の施設・設備に関すること」であり、小学校単体が63%、中学校単体が86%なのに対して、中学校区は35%に落ちついた。

② 学校運営協議会委員からの意見を実際に学校運営に生かした例について（自由記述）

【児童生徒の安全管理に関すること】

- ・ 通学路における危険個所の確認と対策
- ・ 地域と学校の共同による登校安全指導
- ・ 通学路の問題について自治会とともに車両通行止めの要請をしていただいた。
- ・ 登下校の安全指導と見守り体制における PTA の役割を明確にした。
- ・ 登下校の安全確保に関する情報を教職員や児童と共有し、注意喚起や指導に役立てた。
- ・ 児童生徒の登下校の様子を共有し、安全確保のため、地域と学校が協働して指導や見守りにあたった。
- ・ 地域全体で見守り活動を行うように PTA が地域に呼びかけてくれた。

【地域との連携・協力に関すること】

- ・ 授業支援の改善とフィードバック
- ・ 家庭科におけるミシンや調理実習の支援
- ・ 地域との連携を生かした教育活動の実施について（とんど焼、特別支援学級参観など）
- ・ コロナで閉塞的になっている学校行事を、安全確保をしながら保護者や地域に向け積極的に公開していくこと。地域の行事やイベントにも積極的に生徒の参加を呼びかけ、参加を促す。
- ・ 地域に学ぶ取組や、環境整美活動において、地域から支援をいただくことで、教育の充実や働き方改革の推進に役立った。
- ・ 教員の指導が入りにくい学級の支援事業としてどのようなことが可能かについて意見を求め、実際に地域ボランティアの方々に教室に入ってもらって、児童の不安解消、安全確保に努めていただいた。

【学校に対する評価に関すること】

- ・ 学校の取組に対して、地域から一定の評価を得ていることや職員への労いを伝えることで、職員が自信と安心感をもちながら、取組を行っている。
- ・ 学校評価に関するコメントを教職員と共有し、今後の運営に役立てた。
- ・ 学校評価の設問項目を修正した。

【学校の目標としていることに関すること】

- ・ 情操教育を進めるために、50 周年行事で音楽鑑賞会を実施したり、コロナ禍で、中断していたお話の会を復活させたりした。
- ・ 学校経営方針を承認していただいて公開研究授業と研究協議に参加していただき全職員に対して激励していただいた。
- ・ 学校の目標のひとつ、キャリア教育に関して、多様な生き方に学ぶために、生徒が学ばせていただく学校外の人材について、学校運営協議会の委員から紹介を得た。

【学校の施設・設備に関すること】

- ・校舎の営繕にかかる内容でご意見とご協力をいただき、早急に修理することができた。
- ・施設の安全や環境整備についてご意見をいただき、敷地内道路標示等環境整備を進めた。
- ・横断歩道等を塗り替えてもらった。

【教育課程・教育内容に関すること】

- ・地域人材を生かした授業を提案され、実際に地域の方を講師に招聘した授業を計画、実施した。
- ・学力向上、テスト改変、教員の授業力向上
- ・授業改善に関する推進及び特別支援教育の充実（不登校支援教室の推進）などについて

【生徒指導に関すること】

- ・児童の挨拶が少ないことに対して、挨拶運動を実施した。
- ・登下校のとき、感謝の気持ちを見守り活動をしている人に伝えるようにあいさつをするように全体指導した。
- ・自転車に乗る際、ヘルメットを被るように指導（徹底）
- ・いじめ対応
- ・中1 プロブレム対策を小中で協力して検討や実施をすること

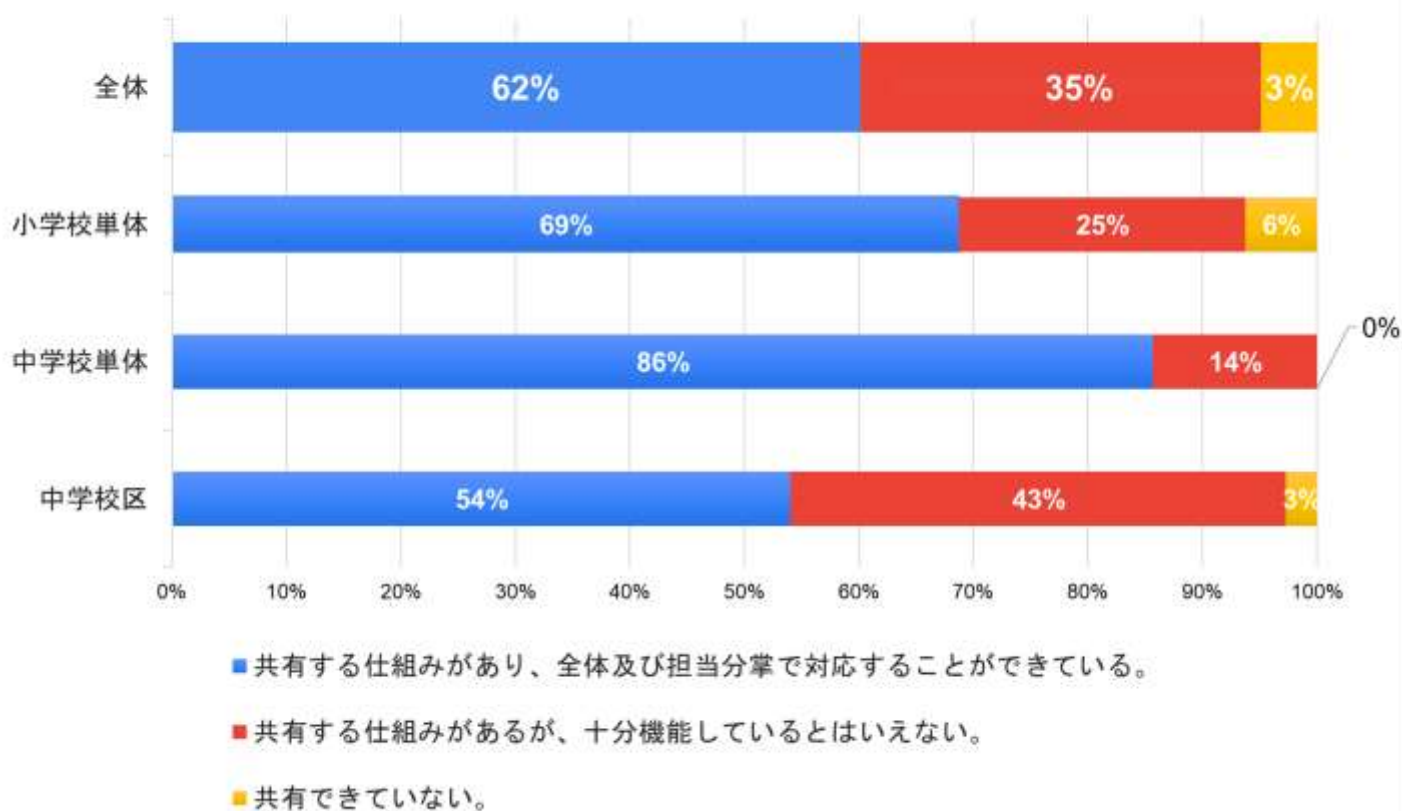
【その他】

- ・教員による登校指導の日数の削減
- ・働き方改革について、勤務時間を超える時間（部活動・授業準備）のあり方
- ・図書室支援を通して、生徒会文芸委員の活動の活性化について意見をいただき、実際に取組指導をいただいた。
- ・次年度に迫った150周年事業では、実施案の作成に際し、多方面からの意見をやご示唆を頂いた。また、実行委員に名を連ねていただき、今後も意見をいただきながら周年事業を勧めていこうと考えている。
- ・私服許可
- ・制服（標準服）の改正に先立って委員から意見を聞きスムーズに改正することができた。（創立150年という伝統校で、地域の方々からの反対が一番危惧されていたため）
100万円の寄付の用途についても同様の手順をふむことで、スムーズに委員会に提案することができた。メンバーにPTA会長も入っていることから、保護者に提案する内容については、まずCSに説明してからという手順でここ2年間は、様々な改革を進めることができた。
- ・中学校区全体の評価に対す意見なので、意見を踏まえて具体的に学校運営に活かした実践はない。

等

③ 学校運営協議会委員からの意見を教職員全員で共有する仕組みはあるか。

設問3



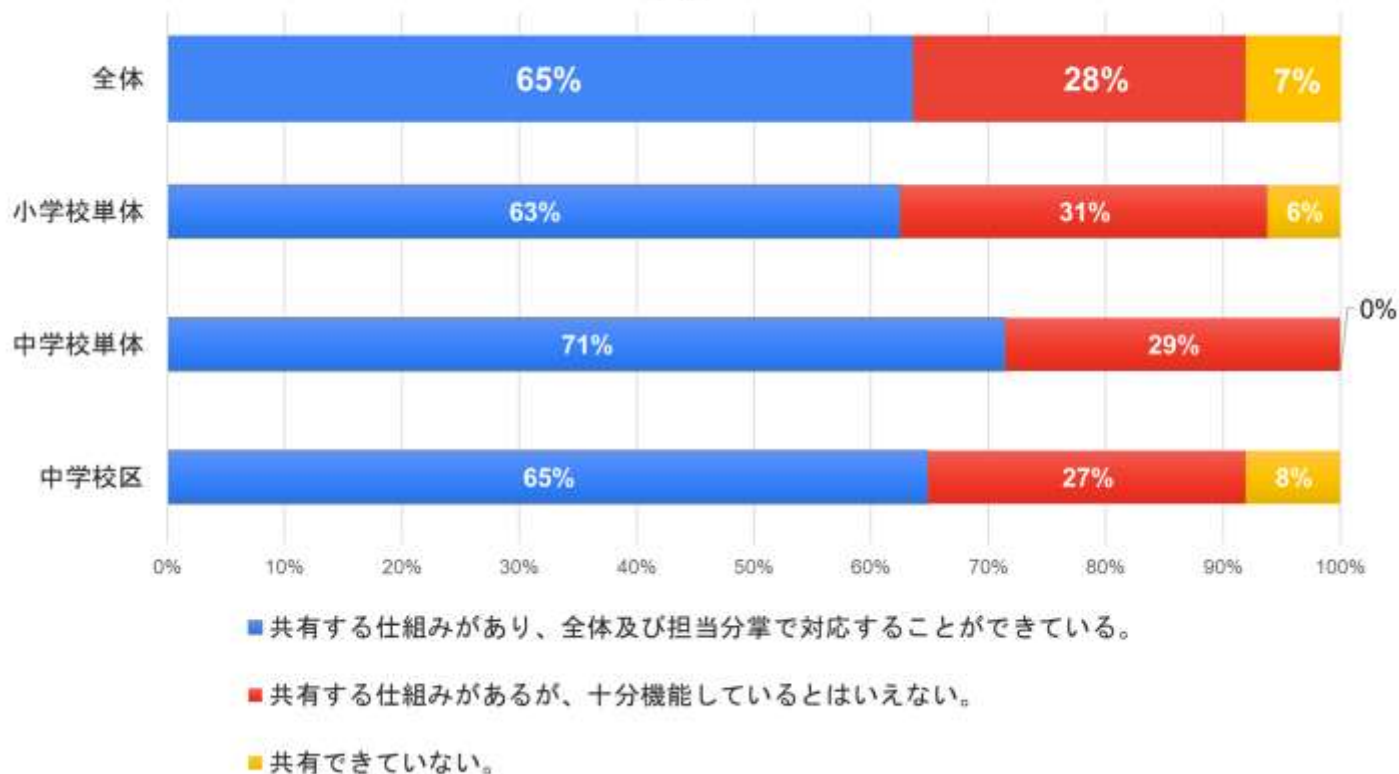
	全体 (60)		小学校単体 (16)		中学校単体 (7)		中学校区 (37)	
	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率
共有する仕組みがあり、全体及び担当分掌で対応することができる。	37	62%	11	69%	6	86%	20	54%
共有する仕組みがあるが、十分機能しているとはいえない。	21	35%	4	25%	1	14%	16	43%
共有できていない。	2	3%	1	6%	0	0%	1	3%

【概要】

設置形態別で少し差がみられ、「共有する仕組みがあり、全体及び担当分掌で対応することができる。」と回答した学校は、小学校単体は69%、中学校単体は86%に対して、中学校区は54%と約半数に留まる結果となった。

④ 学校運営協議会で決定した方針を地域教育協議会に共有する仕組みはあるか。

設問4

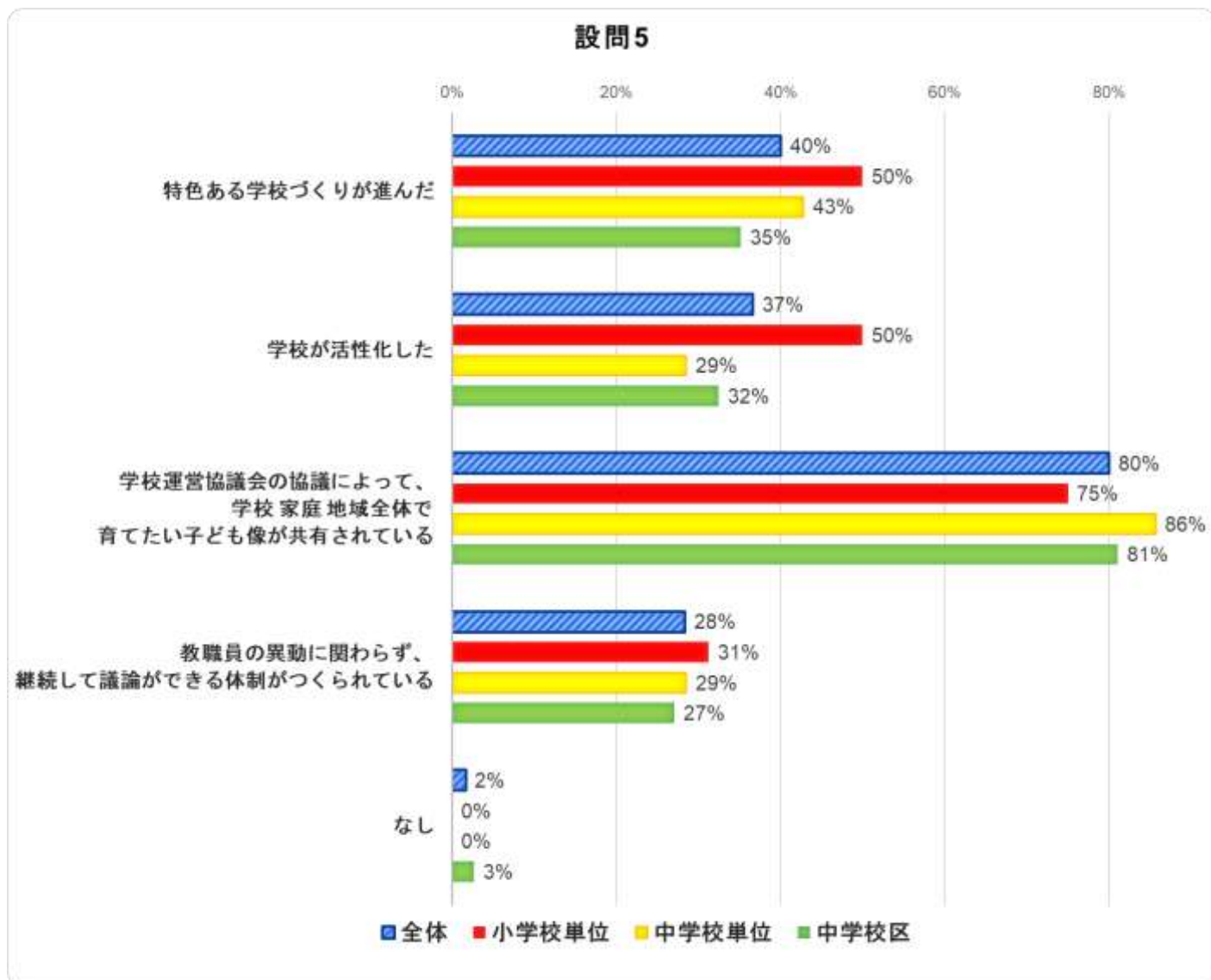


	全体(60)		小学校単体(16)		中学校単体(7)		中学校区(37)	
	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率
共有する仕組みがあり、全体及び担当分掌で対応することができる。	39	65%	10	63%	5	71%	24	65%
共有する仕組みがあるが、十分機能しているとはいえない。	17	28%	5	31%	2	29%	10	27%
共有できていない。	4	7%	1	6%	0	0%	3	8%

【概要】

全体の93%の学校が「共有する仕組みがある」と回答し、65%の学校が全体及び担当分掌で対応することができる」と答えた。設置形態別で大きな差はみられなかった。

⑤ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）による成果はあるか。（複数回答可）

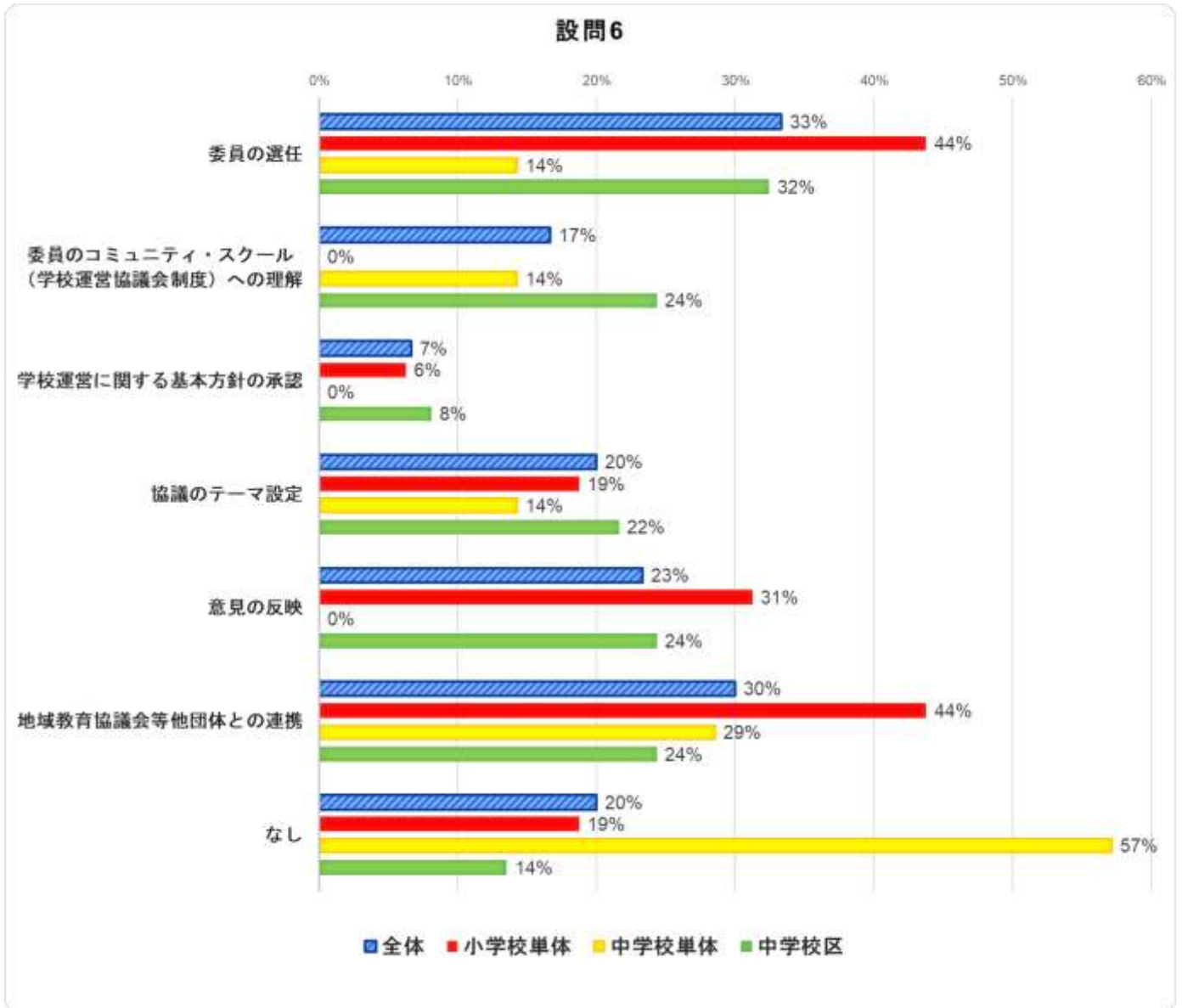


	全体(60)		小学校単位(16)		中学校単位(7)		中学校区(37)	
	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率
特色ある学校づくりが進んだ	24	40%	8	50%	3	43%	13	35%
学校が活性化した	22	37%	8	50%	2	29%	12	32%
学校運営協議会の協議によって、学校 家庭 地域全体で育てたい子ども像が共有されている	48	80%	12	75%	6	86%	30	81%
教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がつけられている	17	28%	5	31%	2	29%	10	27%
なし	1	2%	0	0%	0	0%	1	3%

【概要】

最も多い回答は、80%で「学校運営協議会の協議によって、学校 家庭 地域全体で育てたい子ども像が共有されている」であった。対して、最も少ない回答は「教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がつくられている」で28%であった。設置形態別で大きな差はみられなかった。

⑥ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）における課題はあるか。（複数回答可）



	全体(60)		小学校単体(16)		中学校単体(7)		中学校区(37)	
	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率	回答数	百分率
委員の選任	20	33%	7	44%	1	14%	12	32%
委員のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）への理解	10	17%	0	0%	1	14%	9	24%
学校運営に関する基本方針の承認	4	7%	1	6%	0	0%	3	8%
協議のテーマ設定	12	20%	3	19%	1	14%	8	22%
意見の反映	14	23%	5	31%	0	0%	9	24%
地域教育協議会等他団体との連携	18	30%	7	44%	2	29%	9	24%
なし	12	20%	3	19%	4	57%	5	14%

【概要】

最も多い回答は、33%で「委員の選任」であり、次点は、30%で「地域教育協議会等他団体との連携」であった。また、設置形態別で差がみられた項目は「委員のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）への理解」と「意見の反映」の2点であった。